

第6回日米都市防災会議報告

第6回日米都市防災会議を終えて

大西一嘉（第6回日米都市防災会議事務局長）

第6回日米都市防災会議(主催/地域安全学会、共催/EERI)は、1999年1月12～14日、神戸市のポートアイランドにある神戸国際会議場で開催された。会議には日米双方から200人以上の参加(分科会への公式参加者は221名、うち米国側参加数は39名で当初参加予定者44名のうち5名が欠席)があり、3日間にわたって熱のこもった議論が展開された。会議の詳しい内容は会議プログラムと分科会総括報告を参考にさせていただき、ここではその概要および、ポストツアーの様子なども紹介して会議全体の報告としたい。

第1日目は3つの基調講演と、2つのパネルディスカッション(「阪神地域の自治体における災害対応 - 阪神・淡路大震災の教訓から - 」と「風土・文化に根差した地震に強いまちづくり」の2テーマ)が組み、それぞれのパネルディスカッションごとに日米双方から2名ずつ、合計8名のパネラーがプレゼンテーションを行ない、活発な意見が交わされた。

第2日目は、7つのワークグループに分かれて93編の論文報告(うち米国側2編は欠席)が行われ、会場によっては聴講者があふれるほどの盛況をみせていた。今回は分科会にも一部通訳を入れたこともあって、研究サイドだけでなく行政からも日米の法制度の違いをふまえて積極的に議論に参画してもらえ、従来とはひと味違った会議の成果が得られたと思う。日米双方の参加者にとって密度の濃い意見交換ができたという収穫は何ものにも代えがたい。夜のバンケットでは後援団体の神戸市前野助役、兵庫県斉藤防災監から祝辞をいただき、UNCRDの梶所長(元地域安全学会会長)の挨拶で締めくくった。

第3日目は、各分科会報告が行われた後、まとめの中で次の第7回日米都市防災会議を3年後の2002年に米国ハワイ州で開催する事が確認され、そこでの再会を約して3日間に及ぶ会議の幕を閉じた。

午後からは、参加者が神戸市役所に集合後、旧居留地一帯を歩いて震災記念公園のあるメリケンパークまでを徒歩で巡るポスト・カンファレンス・ツアーを行った。瓦礫状態から再建された重要文



全体会議：室崎実行委員長の挨拶



全体会議



会議後のウォーキングツアー：国指定重要文化財旧居留地15番館の復旧工事の説明

化財の居留地十五番館では担当者の熱心な話に聞き入るあまり、予定時間を大幅に超過してしまい、夜の船上パーティの乗船時間に備えて待っていた関係者をヤキモキさせる一幕もあった。観光船コンチェルトの最上フロア船室で行われたフェアウェルパーティーには54名の参加者が集まり、夕食のひとときを過ごした後でライトアップされた明石海峡大橋を背景に仲良く記念撮影する姿もみられるなど、和やかな雰囲気の中で日米参加者の相互交流がはかられた。

会議翌日の1月15日に行われた被災地バスツアーには35人が参加し、Co-PLANの小林郁雄氏の先導で、淡路島の野島断層記念館から長田区鷹取教会、新長田駅南地区復興公営住宅、真野コレクティブ住宅、神戸副都心を回った後、関西空港まで米国側参加者を無事送り届けることができた。神戸市内の視察では現地の復興まちづくり関係者からも詳しい説明を受け、参加者との間で熱心な質疑応答が行われていた。

ところで、会議前日の1月11日夕方からは神戸国際会議場で“Ice Break”(ビール+ピザのキャッシュバーサービス)を行った。実行委員会の地主敏樹氏にバーテンダーをお願いし、手作り型の運営としたことで、なかなか参加者には好評のようであった。まあ独立採算と言いながらも実は赤字だったのだが、会議の雰囲気を盛り上げる上では何とも効果的な演出となった。

前回の大阪会議参加者の多くが一同に集まる機会としては、第5回のパサデナ会議(米国)に次いでこれが2回目となるが、日本では兵庫県南部地震後はじめての集いであり、かつ被災地の神戸で開催すると言う点で意義深いものがあった。今回の会議には単に地域安全学会の催しという枠組を越えた様々な分野からの参加が実現し、日米双方の近年の地震災害の教訓をふまえて都市の復興や地震被害軽減についての相互理解が大きく進んだものとして評価できる。特に兵庫県南部地震の被災自治体である兵庫県や神戸市をはじめとする行政の方々が50名以上参加され、連日にわたる会議でも米国側との議論に参画していただけたことは、研究と防災実務との密接な連携をはかる上できわめて有益なことであった。これを契機に今後の日米の都市地震防災に関する共通理解が一層深まることを期待したい。

一方、今後の課題がない訳でもない。今回は国内で開催されたから行政の参加がスムーズに進んだだけで、次の米国会議ではこうは行かない。米国側では行政関係者が専門家としてこの会議の常連となっているのと対照的に、我国では防災実務を担当する行政マンが国際会議出席のために渡航を簡単に許されるような状況にはない。しかし今回の会議を通じて都市復興に携わる行政マンの日米防災研究への関心の高さを強く実感したのも事実である。こうした熱意ある方々の一部でもいいから国際的な防災交流への参加を支援するような仕組みはできないものなのだろうか。最新の研究成果がスムーズに行政の防災実務に生かされるのであれば、あるいは防災行政スペシャリスト育成の機運が高まるのであれば、そのためのお膳立ても学会のひとつの役割として今後の宿題にしなければと思う。

ところで、会議の内容の高さに比して運営面では素人集団であったためにいくつもの不備が重なったことを皆様にお詫びしなければならぬ、当初の論文登録数から判断して梗概集を200セットしか準備しなかった事務局判断の甘さもあって、会議1日目から参加者の大幅な増加ペースに驚き、大慌てでプロシーディングの増刷や会議バッグ等の確保に奔走する羽目に陥った。そのため受付が混乱し一部の方に大変ご迷惑をおかけするなど、正直言って舞台裏は冷や汗ものであった。

会議から半年たってようやく最終報告書も完成し、ほぼ会議関連の仕事に一区切りついた気がする。参加者全員には既に送付しているが、最終報告書(¥5,000)をご希望の方は学会事務局までお申し込み願います。これまでと比べてびっくりするほど分厚い(中身の充実した!)冊子が送られてくるはずなので心待ちにして頂きたい。

最後になりましたが、会議の開催に際して陣頭指揮にあたった室崎実行委員長を始め、準備や運営に惜しみない協力をいただいた実行委員会、並びに地域安全学会組織委員会の皆様、各分科会の運営を快くお引き受けいただいたco-chairの方々並びに参加者の皆様、私との合計90通に及ぶ交換メールを通じて共に準備を進めてくれた米国側カウンターパートであるEERIのスタッフ、また御後援賜った神戸市、兵庫県、国土庁、消防庁をはじめとする関係各位に重ねて御礼を申し上げます。とりわけ神戸市復興総括局の太田氏、兵庫県防災企画課の石田氏、都市住宅部の富岡氏(いずれも所属は当時)には様々な局面でご支援をいただいた。さらに、会議の成功の裏には、冷めたピザを頼りながら深夜までかかって準備を手伝ってくれたスタッフの苦勞があることをここに付記して感謝としたい。

各分科会ではノースリッジ地震と兵庫県南部地震の教訓、これから日米が相互協力して取り組むべき課題の提案を中心に議論が行われ、成果がとりまとめられた。成果報告の全体会議では、成果を概観しての意見や今後の課題についての意見が交わされた。各分科会のとりまとめと3日目全体会議成果報告会議での意見の要点をまとめると次のようになる。

【WG # 1：被害想定と災害情報、GIS、リモートセンシング】

- ・研究（研究者）と実用化（ユーザー）のギャップを埋めること。ユーザーが技術を知らない、技術が使える形にまでなっていないなどの問題がある。
- ・データの構築と標準化。
- ・組織間のデータ交流。
- ・データを一般市民に役立つように提示すること。
- ・情報交換の促進。

【WG # 2：緊急対応と指令体制、行政対応】

- ・米国の被災後早期の専門部隊による対応、日本の草の根的対応の有用性に関する研究。
- ・被害想定のアプローチ、被害予測データの活用。
- ・災害軽減を支えている個々人に報いることに欠如している、保険システムの確立。
- ・情報の入手しにくさ、データの活用、情報の開示の課題。米国では税でつくったデータは住民に返すという認識がしっかりしている。
- ・日本では危機管理コンサルタント業務が成り立ちにくい。
- ・企業の危機管理、企業の危機管理能力の活用。
- ・エンドユーザーは災害軽減アイデアのある製品を望んでいる。

【WG # 3：復興まちづくりと防災コミュニティ】

- ・事前復興計画の重要性、事前復興技術の開発。
- ・事前復興計画にあたり、住民参加のプロセス、事前のコンセンサスが必要。
- ・物理的復興だけでなく、社会経済的、文化的復興が重要、総合的プロセスとして復興をとらえる。
- ・復興計画は短期から長期への展望、連続的パースペクティブが重要、短期計画も示す必要あり。
- ・リアルタイム復興分析の必要性
- ・災害は新しい都市づくりの契機となりうるが、その進め方は注意深く取り込まねばならない。
- ・様々な計画の中に、災害軽減が組み込まなくてはならない（持続可能性など）
- ・すべての地震被災都市における経験を残す、記録のしかたを工夫する。
- ・住民参加が今までになく強調されたことが新しい。

【WG # 4：住宅再建と社会システム】

教訓：

- ・家屋修復の重要性。
- ・財源の予測はむずかしい。
- ・政府の財政支援、規制の緩和。
- ・建物の撤去によって、コミュニティが破壊される。
- ・少数民族、低所得層への対応。
- ・現存する政策との連続性。
- ・地元の大工さんが災害軽減に果たした役割が大きかった。
- ・「すまい」は「住民+家族+コミュニティ」。

提言：

- ・事前復興における柔軟な法的、財源的措置。
- ・安全を確保しながらの規制緩和。

- ・仮設住宅の段階ごとの計画が必要。
- ・自治体の住宅家賃援助。

【WG # 5 :被災者対応とボランティア、生活支援】

- ・CERT (コミュニティの緊急対応チーム)、ボランティア管理。
- ・被災者復興支援会議、被災者が復興計画に参加できるような第三者機関が必要。
- ・政府、市民、地方行政のコミュニケーションを切れ目ない形で取らなければならない。
- ・歴史学を知っている場合と知らない場合の緊急対応の違い。

【WG # 6 :経済再生と産業復興、スモールビジネス】

- ・地震の定量的経済評価、長期経済復興評価、経済のモデリング、企業への影響とその因子、対策の経済的評価。
- ・経済的影響は長期、広範におよぶ、回復できないことも含まれる。
- ・全般的景気の影響を受ける、全般的景気の傾向を強化する。
- ・回復の管理を積極的に行う必要がある。
- ・中小企業は弱い、ターゲットとする必要がある。
- ・復興の経済的評価は方法によって変わってくる(国家、人、・・・など主体により)。
- ・港湾設備は弱い、どうして弱いのか、災害影響の研究の場となりうる。
- ・経済的影響は一般化がむずかしい。
- ・地震の経済的影響を、他の災害などと比較し、政策への具体的展開に結びつける形で結果を出すことが望まれる。

【WG # 7 :ライフラインと建築物、耐震化】

- ・いろいろなギャップがあり、ギャップを埋める方策が必要である。例えば、求めている安全な社会と現実、実務者と研究者など。
- ・技術とツール、性能指向設計、GISのデータはたくさんあるのでそれを一つのデータ源として把握するツールが必要。
- ・システム全体を見ることが必要。
- ・何がクリティカルか、優先順位、集中対策が必要。
- ・遡及適用。
- ・新築と改修補強のバランス。
- ・許容できる性能の定義づけ。
- ・軽減コスト、復旧コスト、最もコスト効率の高い方法は？ そのための情報コミュニケーションが必要、市民に伝える、市民の声を聴く。
- ・生活の質(Quality of Life)の維持、文化・歴史などの連続性の重要性。

【3日目全体会議成果報告会での意見】

- ・今回の会議では社会学的なことにウエイトが移ってきた。
- ・制度的、経済的には民間活力が発揮されるような援助をするべきである。
- ・個人補償を行うべきか否か、地震保険の検討、保険の活用の日米比較が重要。
- ・国際的な人間は適応性が高い、日米で文化的違いがあっても良いものを取り入れるために違いのギャップは乗り越えられる。
- ・ロサンゼルスの方舎補修には3億ドルかかった、誰のための復興か、議論がまだ続いている。
- ・環境計画の一環として地震をとらえることが必要である。

第6回日米都市防災会議プログラム

(於：神戸国際会議場 / 神戸市中央区港島中町 6-9-1 (078)302-5200)

1999年1月11日(月) 前日

- 17時～20時 参加登録(神戸国際会議場3階にて)
ウェルカムドリンク(Ice Break)コーナー有り(18～21時、同・3階ラウンジにて)
- 17時～18時 主催者合同会議(地域安全学会+EERI、コーディネーター)
- 18時～20時 日米コーディネーター事前打ち合わせ会

1月12日(火) 第1日目

- 9時～ 参加登録
- 9時50分～10時10分 開会式
開会のあいさつ 濱田政則(地域安全学会会長、早稲田大学)
Joanne Nigg, President EERI
室崎益輝(第6回日米都市防災会議実行委員長)
- 10時10分～12時 基調講演
司会 重川希志依((財)都市防災研究所) Charles Eadie, Co-Chair EERI
1. 亀田弘行(京都大学防災研究所)「日本における防災研究の現状」
2. Susan Tubbesing (EERI)「都市防災分野における国際協力研究の現状」
コーヒー・ブレイク
3. 大角晴康((財)阪神・淡路産業復興推進機構)「阪神・淡路大震災からの経済復興」
質疑応答
- 12時～14時 昼食 (1階レストラン「フォントナ」)
- 14時～15時30分 パネルディスカッション1
「阪神地域の自治体における災害対応 阪神・淡路大震災の教訓から -」
座長 熊谷良雄(筑波大学) Susan Tubbesing (EERI)
1. 斉藤富雄(兵庫県防災監)「阪神・淡路大震災の教訓を活かした防災体制」
2. Richard Eisner(カリフォルニア州)「カリフォルニア州における防災課題」
3. 伊川一男(神戸市市民安全推進室長)「安全都市づくりを目指した神戸市の取り組み」
4. Henry Renteria(オークランド市)「オークランド市における防災コミュニティー事業」
討論(30分)
コーヒー・ブレイク
- 15時30分～16時
- 16時～17時30分 パネルディスカッション2
「風土・文化に根差した地震に強いまちづくり」
座長 塚越 功(慶応大学) Laurie Johnson(Risk Management Solutions)
1. 小林正美(京都大学)「風土・文化に根差した地震に強いまちづくり」
2. Mary Comerio(UCLA) "Housing Recovery and Community Preservation"
3. 鈴木 有(秋田県立農業短期大学)「木造建築の耐震補強技術」
4. Laurence Kornfield(サンフランシスコ市) "Preservation of the Community Fabric in Post Earthquake reconstruction"
討論(30分)
- 夕食(各自)

1月13日(水) 第2日目

- 9時～16時30分 分科会討論
- 11時30分～14時 昼食(1階レストラン「フォントナ」)

WG#1 被害想定と災害情報、GIS、リモートセンシング
コーディネーター：山崎文雄(東京大学生産技術研究所)
Thalia Anagnos (San Jose State University)
Scott McAfee (California Office of Emergency Services)

WG#2 緊急対応と指令体制、行政対応
コーディネーター：長能正武(竹中工務店技術研究所)
関沢愛(消防庁消防研究所)
James Goltz (California Institute of Technology)
Guna Selvaduray (San Jose States University)

WG #3 復興まちづくりと防災コミュニティ

コーディネーター： 中林一樹（東京都立大学都市研究センター）
小林郁雄（コープラン）
小浦久子（大阪大学工学部）
Chris Arnold (BSD Associates)
Kenneth Topping (Cambria Community Services District)

WG #4 住宅再建と社会システム

コーディネーター： 村上ひとみ（山口大学工学部）
牧 紀男（理研地震防災フロンティア研究センター）
Charles Eadie (City of Watsonville)
Joanne Nigg (Disaster Research Center)

WG #5 被災者対応とボランティア、生活支援

コーディネーター： 立木茂雄（関西学院大学社会学部）
桜井誠一（神戸市生活再建本部）
Richard Eisner (California Offices of Emergency Services)
Risa Palm (University of North Carolina)

WG #6 経済再生と産業復興、スモールビジネス

コーディネーター： 豊田利久（神戸大学国際協力研究科）
地主敏樹（神戸大学経済学部）
Stephanie Chang (University of Washington)
Kathleen Tierney (Disaster Research Center)

WG #7 ライフラインと建築物、耐震化

コーディネーター： 能島暢呂（岐阜大学工学部）
松下 真（神戸市水道局）
Mark Yashinsky (Caltrans Office of Earthquake Engineering)

昼休み中 主催者合同会議（地域安全学会 + EERI）（レゾリューションの作成）

18時～20時 パンケット

・1月14日（木）第3日目

9時～11時 全体会議

司会 小川雄二郎（アジア防災センター）+アメリカ側
各分科会のまとめ（日米15分×7分科会）

11時～11時20分 コーヒーブレイク

11時20分～11時50分 閉会式

総括： 小川雄二郎（地域安全学会副会長、アジア防災センター）
Chris Arnold（EERI次期会長）
閉会の辞：室崎益輝（実行委員長、神戸大学）

昼食（各自）

午後

ウォーキングツアー（神戸市内の復興状況、徒歩、希望者は全員参加可）

（担当：宮崎、小林） 通訳：留学生2名

・神戸市役所展望フロアー フェニックスプラザ 旧居留地（ノザワ、市立博物館）

メリケンメモリアルパーク（17時頃解散） ハーバーランドへ

17～19時 （自由時間）

19時 ハーバーランドにて観光船「コンチェルト」乗船

19時～20時30分 船上フェアウェルパーティー

・1月15日（金）

9時30分～17時 スタディー・バスツアー <復興4年目をみるツアー>